

# 時をかける形態学

主催：川上和人・川口敏・江田真毅・山崎剛史・藤田祐樹（形態向上委員会）

形態は、「時間が経っても残ります」。

形態は、「時間と共に変化します」。

形態は、「時間を止めても観察できます」。

今回は、様々な時間スケールの中で、形態情報を読み解きます。

## 形態を見ずして、鳥類学を語るな！

さあ、今年も Let's 形態学！

### ● 第1幕：「進化の時間」

鳥類の初期進化・臼田隆行（折り紙でカワウとウミウを折り分ける男）

最近、中国では羽毛恐竜や化石鳥類が続々と見つかっています。鳥類の初期進化はホットな話題ですが、生態や形態をあわせて考えなければ全貌は出てきません。なぜ恐竜は空を飛ばなければならなかったのか。なぜ飛ぶことができたのか。羽毛を1つの手がかりに、鳥類進化の謎にちょっとだけ踏み込んでみたいと思います。

### ● 第2幕「種分化の時間」

ウグイスの外部形態—多様性と分化の歴史—・梶田学（手触りでウグイスの産地がわかる男）

ウグイスは東アジアに広く分布し、地域ごとに形態的な違いが認められています。しかし、これらのグループ間の系統関係は、これまでほとんどわかっていません。今回は、外部形態の再調査結果と DNA 塩基配列を用いた系統解析結果の両方を持ちいて、各地域のウグイスの形態的特徴と、その形態の多様性がどのような分化の歴史を経て獲得されたのかについて紹介します。

### ● 第3幕「歴史の時間」

遺跡出土骨の同定に形態情報は不要か？江田真毅（シルエットで鳥骨を同定できる男）

遺跡から出土した骨を同定する際、現生標本の形態に基づく同定基準は役に立たない可能性があります。小進化などによって骨の形態が時代変化するためです。一方、近年遺跡出土骨の DNA 解析による種同定が多数成功しています。これらの骨の同定に形態データはもういらないのでしょ

うか？今回の発表では、この間に力強く「No!」と答えます。

### ● 第4幕「個体の時間」

“発生”から探る鳥類形態の多様化と進化・土岐田昌和（発生途中で種同定できる男）

最近の生物学界ではモデル生物の発生の研究を土台に、非モデル生物の形態進化を理解しようとする動きが活発です。これまで、ニワトリの研究から“トリのかたち”がどのようにしてできているのかについて多くのことがわかっています。でも、トリはニワトリだけではないですよ

ね？今後、いろんなトリの発生の研究から、鳥類の多様な形態の進化がわかってくるはず